

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572505931		
法人名	医療法人薫風会		
事業所名	認知症老人グループホーム 元瀧荘		
所在地	秋田県にかほ市象潟町小滝字麻針塚19		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成25年 9月 26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>鳥海国定公園内に位置し、風光明媚な環境の下、入居者一人ひとりの尊厳を大切にした共同生活介護を実践している。</p> <p>本人の要望を聞くことを最も大切にし、出来る限り実現するよう努力している。</p> <p>同一敷地内には象潟病院、介護保険施設、居宅支援センターを併設しており、各々の専門職と協力、連携によりサービスの充実につながっている。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者をはじめ職員の一人ひとりが、「その人らしく」「その人に寄り添う」ことを基本理念に、利用者個々の人格を尊重し、尊厳を大切に支援にあたっている。事業所の敷地内に、同一法人の経営する病院や介護老人保健施設、居宅介護支援センターがあり、事業所との連携が図られている。医療等の専門職と協力体制にあるため、利用者及び家族は安心して利用している。将来的に、同一法人施設で終末期ケアが可能である等の選択肢もある。防災等利用者の安全について、夜勤想定避難訓練や炊き出し訓練、隣接施設との応援訓練の他、地域の消防団との協力等、積極的な取り組みがされている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義を踏まえ、代表者、管理者が中心となり理念の実践に取り組んでいる。 本年度は管理者が現場で活かす介護理念、介護理念の共有と実践方法を学び実践に取り組む研修に参加。	「その人らしく」「その人に寄り添う」という事業所理念は、職員一人ひとりに理解、共有され、日々の支援で実践されている。管理者はリーダー研修、実践者研修に参加し、理念の実践方法を学ぶなど研鑽に努め、職員指導にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市街地から離れているため個々の交流は少ないが法人全体で町内会と関わりを持ち行事等参加の機会を伺っている。 買い物等なるべく一緒に行き地域の雰囲気を感じてもらう。	事業所は立地場所が周辺の居住地域から離れている。そのため、地域住民との直接的な関わりは難しいが、法人の行事や地域ボランティアとの交流を通して、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	定期的に広報を発行。買い物は入所者同伴、美容院などはなじみの場所等、近隣住民との顔合わせの機会を多く持つ。 併設の介護老人保健施設行事等共同で行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は家族が遠方、多忙等で参加が見込めず開催回数が少なかったが、工夫することにより本年度は二か月に一回開催し、各関係者からの意見を取り入れサービス向上に活かしている。	運営推進会議は偶数月に行っている。また、避難訓練や笹巻づくりなど、行事と同じ日に運営推進会議を行うことで、利用者家族の積極的な参加が得られるよう工夫している。会議の場では話しにくい率直な要望や意見なども引き出し、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に行政職員の参加を依頼。 又、同一法人の居宅介護支援センターを通じて包括支援センター等と繋がりをもつ。	県や市町村のグループホーム協議会に参加し、市町村担当者と情報交換を行っている。また、同一法人の居宅介護支援センターと連携し、情報提供を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束の弊害を理解し、拘束の必要のないケアの実践に努めている。	事業所は身体拘束をしないケアを目指しており、全職員はそれを理解している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い「業務に追われ、やむを得ず、自覚の無いまま」不適切なケアが無いよう注意喚起している。 職員がお互い注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで事例は無いが、必要に応じて対応する。 代表者は自立支援法における相談支援従事者、サービス管理責任者である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を用い、利用者・家族に十分な説明聞き取りを行い理解・納得の上で契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望及び苦情等の相談の仕組みについて、重要事項説明書、入所契約書に明記している。 現在のところ意見・要望はとくに無いが、利用者・家族との日常の会話から思いや希望を探るようにしている。	運営推進会議や面会時等に、家族から意見や要望を聞いている。また、利用者からは日常のさりげない会話の中から、思いや要望をくみ取り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を中心に毎日の申し送りで意見・要望を聞き検討していく。大きな課題等は管理者を通し法人上部へ伝える。	管理者は、毎日の申し送り等で職員の意見や提案を聞き、都度検討している。職員ヒヤリングでは、意見を出しやすい環境が整えられている。また、出された意見は管理者から上にも伝わり、運営に反映されていると確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に相談がある場合は別途時間を設け相談に応じる。 法人全体では様々な親睦の機会を設け、事業、職種間での交流を図り、個々の抱え込みが無いよう努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等には出来る限り平等に参加し、伝達研修は必ず実施するよう指導している。 有資格者は資格取得を希望する職員に対して助言、トレーニングを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田県、由利本荘・にかほ地区GH連絡協議会に加入。 研修参加や情報交換の機会を多く持ち、お互いのサービス向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際しては時間をかけ、家族、本人の思いを聞き少しでも多くの要望を取り入れ、又不安解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者は人生の先輩」と尊厳をもって接している。 我々が知らない家事や農業、季節行事は利用者に聞きながら一緒に作業している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員と家族が手紙等用い利用者の現状や生活状況等連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には使い慣れた日用品、馴染みの物を持ち込み安心して生活できる環境づくりに努めている。 本人が慣れるまでは職員が寄り添い他の利用者との交流に目を配っている。	床屋、墓参り、出身校訪問など職員が付添い、外出支援をすることで、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。また、兄弟の面会は、職員による送迎が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業・余暇時間には利用者同士の関係が円滑に出来る様に支援している。日頃の会話にも職員が気に掛けながら介入している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の象湯病院、介護老人保健施設、居宅介護支援センター等と連携し、必要に応じて相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で触れ合う機会を多く持ち、希望、思いを把握するよう努めている。会話、表情からも思いを察し確認するようにしている。	職員は、利用者と親身に会話を交わし、一人ひとりの希望や思いを理解して、思いに添うよう努めている。また、利用者の表情や職員との会話から、信頼関係が構築されていることが確認できた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から詳細に情報をいただいている。入居中も本人との会話や家族の面会時に聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅での生活スタイル、暮らしぶりを理解して出来そうなことをみつけ、本人本位の生活をしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から要望を取り入れながら、職員間でカンファレンスを行い介護計画を立てている。	利用者のケアの在り方について、日頃から職員間で頻りに話し合いを行っている。また、本人や家族の意向の他、医師等の専門職も交え、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を看護記録に残して職員間で情報の共有を図り、介護計画の見直しに役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域民生委員に近隣地域の行事予定情報をお願いする等地域資源を発掘し、可能な限り参加いただき自身の暮らしを楽しんで頂きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に現かかりつけ医を希望する場合は利用支援する。 移動や利便性から協力医療機関を希望する場合は初診時から支援する。	入居時に本人及び家族に意向を確認し、希望に沿った支援が行われている。かかりつけ医や協力医療機関を受診する時は、職員が利用支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回契約看護師が健康管理や医療的な支援を行っている。 契約看護師が不在の場合は併設介護老人保健施設医師、看護師と相談出来る体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中医療機関との情報交換をして家族にその都度伝え、利用者には心身への負担にならぬよう、安心して治療できるよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化した場合、家族、主治医と話し合いを設け、今後の対応を検討しながら方針をたてている。 終末期に関しては、希望により、併設の介護老人保健施設にてターミナルケアが可能である。	入居時から、本人及び家族の希望を確認している。また、重篤化した際は法人内の介護老人保健施設で、ターミナルケアも可能であることを伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを策定し、緊急時や急変時に職員が慌てることの無いよう研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で消防計画を策定し、有事の際には応援体制が整っている。 避難訓練は法人6回／年のうち、事業所単独で2回／年で夜間想定で実施。	事業所実施の避難訓練は、年2回消防署立会いのもと実施している。また、法人内で応援体制や、地域消防団との協力体制が整えられている。炊き出し訓練や備蓄、発電機購入等といった、災害への備えについて、積極的に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室は全て施錠可能でプライバシーを確保している。 施設内ではコンプライアンスルールを策定し、個々の尊厳を損なうことなく対応している。	職員は、利用者の尊厳を大切にされた支援を実践している。また、排泄の失敗や、言動の間違いについて、利用者本人が傷つかないように、気配りしている様子が確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望可能な限り対応する。また表現できない、しづらい利用者には声掛けし、希望・嗜好、行きたい場所、やってみたい事等聞き取りしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の個々の体調、状態を見て利用者の気持ちを尊重し個別にケア出来る様対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	衣類は本人の好みに合った服を職員と一緒に選んでいる。 事業所内で白髪染めやマニキュアをしたり等お洒落を楽しむ手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望に応じて取り入れ、行事食や笹巻作り等郷土料理も行う。 下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、下膳まで出来る範囲で共同で行う。	利用者との会話の中から希望を聞き、献立に反映させている。食べたくないものがある場合は、利用者に合わせて代替の物を用意することもある。また、利用者の出来る範囲で、職員と一緒に食事を作り、片づけ等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量を記録し、職員全体が把握でき利用にしている。 利用者の状況によって刻み食、代替え品を提供する個別対応も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、嗽の声掛けを行い状態に応じて職員が見守り、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンに沿って声掛けをしてトイレ誘導している。 自尊心を損なわない様な声替えをしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、支援をしている。誘導の際も、職員は他の利用者には聞こえないように話すなど、さり気なく行う支援が徹底されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度に体を動かす機会を作り自然排便が出来るよう支援している。 便秘症の方には主治医の指示の下に下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴している。 利用者より希望がある時は足浴を行っている。	出来る限り利用者の希望に添えるよう、入浴を行っている。週に2～3回、職員が付き添い、1対1で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間に決まりを設けず、個々の状況に応じて対応している。 眠れない時は話相手となり、安心して入眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の介護記録に処方箋を添付し、職員が薬の情報が得られるようにしている。 薬の変更、追加等あればその都度職員間で伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の趣味、興味、能力など把握し、家事作業、畑作業等、利用者が喜んで楽しめるような活動を支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	その日の利用者の希望に最大限応じ、買い物、ドライブ、床屋等個別に対応している。	利用者個々の希望に応じ、近くのスーパーへの買物や外食、床屋等の外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、利用者からの希望がなければ、金銭は自己管理。 現在、殆どの利用者が自己管理出来ないため所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話機は自由に利用可能。 又居室に個別に電話回線を引くことが可能。 本人と家族の間で手紙のやり取りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内にはソファ、テーブル、椅子を配置。 その他和室スペースを設けている。 テーブルは昇降対応で利用者毎に調整可能。 廊下は吹き抜けで天窓から自然光が入り、圧迫感の無い作りである。	共有空間は、広く開放的である。また、各所にソファや置かれ、利用者がくつろげるスペースが確保されている。吹き抜けの廊下は自然光が入り、照明は間接照明で柔らかい。また、窓から風が通り、まわりの風景は自然豊かで季節感が感じられ、利用者はゆったりと過ごす事が出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ダイニングテーブル、ソファを複数設置、和室スペースあり。晴天時は屋外テラスで過ごす事も可能。 各々思い思い過ごせる環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の持ち込み品には特別な制限を設けておらず、使い慣れた日用品、馴染みの物を持ち込み安心して生活できる環境づくりに努めている。	居室は、利用者それぞれに家族写真や人形、観葉植物など本人にとって好きなものが並べられ、居心地の良い空間となっている。また、馴染みの家具や裁縫箱などの使い慣れた物も大切にされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者本人が分かるように「表示」、「置き場所」を工夫し混乱しない様配慮している。		